

CREATE-SIMPLE

(クリエイト・シンプル)

を使った

化学物質リスクアセスメント
について

令和6年度 化学物質管理セミナー

令和7年2月4日(火)

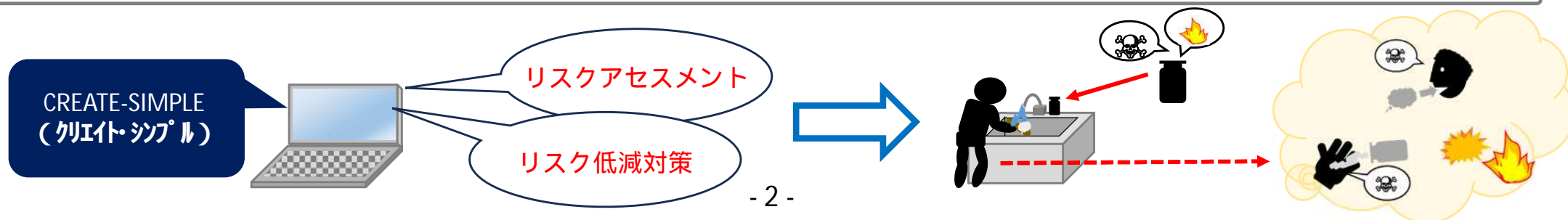
滋賀労働局 労働基準部 健康安全課

CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) を使った化学物質リスクアセスメントについて

令和6年4月から全面施行された「新たな化学物質規制」においては、化学物質に対する**リスクアセスメントの実施**やリスクアセスメント結果に基づく**リスク低減対策の実施**が重要な取組となっています。今回は、化学物質にかかるリスクアセスメント・リスク低減対策の検討に当たって、有効なツールである「CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル)」につきまして、以下の流れで説明させていただきます。

本日、お話しさせていただく内容

- 1 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) とは
- 2 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) の入手方法
- 3 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) の構成
- 4 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) を使ったリスクアセスメントの実施



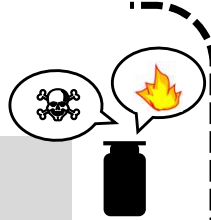
1 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) とは

厚生労働省が開発した幅広い業種向けの簡単な化学物質リスクアセスメントの手法・ツールのひとつで、簡単な質問に答えていくだけで3種類のリスク（吸入・経皮吸収・危険性）を見積もることができるものです。

1 リスクアセスメント (危険・有害性見積もり) を実施する作業

製造・取扱う化学物質の
危険・有害性
(SDS・製品安全データシート)

作業条件
(取扱量・作業性質・換気条件・
作業時間・作業頻度・皮膚接触・
手袋使用・教育訓練)



入力

CREATE-SIMPLE
(クリエイト・シンプル)

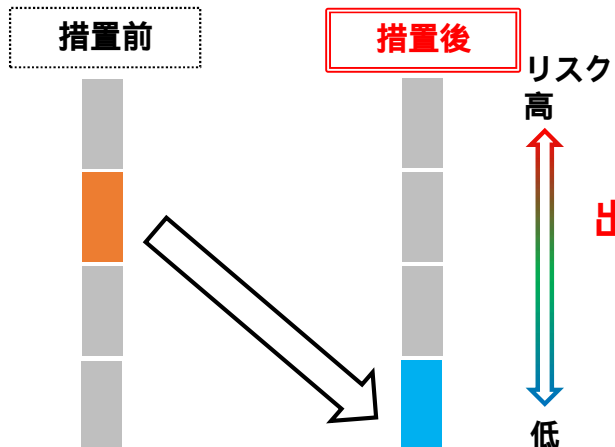
2 リスクアセスメント (危険・有害性見積もり) 結果の表示



出力

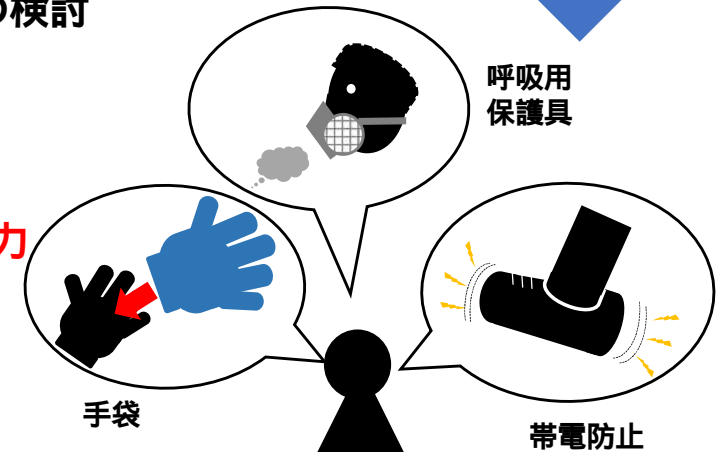
リスク
高
↑
↓
低

4 リスクの再判定 (リスク低減措置の効果確認)



出力

3 リスク低減措置 (危険・有害性を下げる対策) の検討



入力

2 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) の入手方法

CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) は「職場のあんぜんサイト」からダウンロードが可能です。

YAHOO! JAPAN 職場のあんぜんサイト × 検索 + 条件指定

ウェブ 画像 動画 知恵袋 地図 リアルタイム ニュース 一覧 誌

約358,000件 1ページ目

職場のあんぜんサイト sds 職場のあんぜんサイト労働災害事例 で検索

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp>
職場のあんぜんサイト

みんなが元気になる職場を創りましょう。 - 令和6年度全国安全週間「危険に気付くあなたの目
そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全」 - 事業主の方へ補助金 ...

[化学物質：GHSモデルSDS](#) ... [化学物質のリスクアセス...](#)
GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報 ... 製造業、建設業だけでなく、清掃業、卸
は、GHS (化学品の分類 ... 売・小売業、飲食店、医療・福 ...

[労働災害事例](#) ... [ヒヤリ・ハット事例集](#)
労働災害事例のトップへ・労働災害事例集 ... 墜落・転落・転倒・飛来・落下・その他
死亡災害データベース・労 ... 交通事故 - ...

[各種教材・ツール \(日本語\)](#)
VR教材、Youtubeにリンクします。本教材
は、学習と体験をセットにする ...

「職場のあんぜんサイト」を検索する。

「職場のあんぜんサイト」とは
労働災害統計、労働災害事例や安全衛
生のための教材・ツール等の労働災害
防止に役立つ情報を発信する、厚生労
働省のサイトです。

厚生労働省
職場の安全を応援する情報発信サイト/
職場のあんぜんサイト

HOME お問合せ サイトマップ 検索

労働災害統計 労働災害事例 各種教材・ツール 化学物質

- 各種教材・ツール (日本語) • Learning Materials and Tools (英語) • 各種教材、資料 (中国語)
- Các loại giáo trình/công cụ (ベトナム語) • Iba't ibang materyales/kagamitan sa pagtuturo (フィリピン語)
- វិធានការណ៍សុវត្ថិភាពការងារ (カンボジア語) • Semua Materi & Sumber (インドネシア語)
- มาตรการความปลอดภัย (タイ語) • มาตรการความปลอดภัย (ミャンマー語)
- արդեւ փոփոխուող փոխարկեր, արհեստներ (ネパール語)
- Төрөл бүтэйг сургалтын материал болон хэрэгсэл (モンゴル語)
- Materiales educativos y otras herramientas (スペイン語)
- Materiais e Ferramentas de Aprendizagem (ポルトガル語) • 각종 교재·도구 (韓国語)

働く人 家族 企業
みんなが元気になる職場を創りましょう。

【被災地の皆様へ】
令和6年能登半島地震に関する厚生労働省からの情報は、[回省特設サイト](#)をご確認ください。

令和7年1月1日から
労働者死傷病報告の電子由請が義務化されます!

職場の安全を応援する情報発信サイト/
職場のあんぜんサイト

HOME お問合せ サイトマップ

労働災害統計

労働災害事例

各種教材・ツール

化学物質

「化学物質」を選択する。

職場の安全を応援する情報発信サイト/
職場のあんぜんサイト

HOME お問合せ サイトマップ

労働災害統計

労働災害事例

各種教材・ツール

化学物質

化学物質に関する各種メニューが表示されるので、「化学物質のリスクアセスメント実施支援」を選択する。

化学物質のトップへ

- 安衛法名称公表化学物質等
- GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報
- GHS対応モデルラベル情報
- 化学物質による災害事例集
- 化学物質のリスクアセスメント実施支援
- その他の情報はこちら(化学物質のトップへ)

化学物質関係では、法適用がある物質の検索情報やモデルとなるSDS(製品安全データシート)等、様々な情報を掲載しています。

ホーム > 化学物質のリスクアセスメント実施支援

化学物質のリスクアセスメント実施支援

目次

労働安全衛生法による化学物質のリスクアセスメントについて

詳しくはこちら

リスクアセスメント支援ツール

詳しくはこちら

リスクアセスメント実施・低減対策検討の支援

詳しくはこちら

関連ページ

詳しくはこちら

「リスクアセスメント支援ツール」の「詳しくはこちら」を選択する。

「化学物質のリスクアセスメント実施支援」には、リスクアセスメントの実施やリスク低減対策に関する情報も掲載されています。

リスクアセスメント支援ツール

化学物質のリスクアセスメントを支援するため、厚生労働省では様々な支援ツールを作成し公開しています。また、厚生労働省以外でも、国内外の研究機関が様々なリスクアセスメント支援ツールを開発し、公開しております。リスクを見積もる方法や支援ツールは様々あり、ツールの利用は必須ではありませんが、各ツールの特色や作業内容、事業場の状況などを考慮した上で、適切なツールを取り入れて、リスクの見積もりに役立てて下さい。なお、各ツールでは主にリスクを見積もることを支援しているため、ツールでリスクを見積もった後は見積もった結果に基づいてリスク低減措置の内容の検討が必要となります。

<厚生労働省作成のツール>

名称 (リンクをクリックすると概要説明に移動します)	対象	特色	マニュアル・参考	ツールへのリンク
厚生労働省版コントロール・バンディング	有害性	ILO(国際労働機関)が中小企業向けに作成した作業者の安全管理のための簡易リスクアセスメントツールをわが国で簡易的に利用できるように厚生労働省がWebシステムとして改良、開発したものの。液体・粉体作業用と主に粉じん則に定める粉じん作業用の2つのシステムあり。化学物質の有害性情報、取扱い物質の揮発性・飛散性、取扱量から簡単にリスクの見積もりが可能。 平成31年3月から、「液体・粉体作業」でもハザードレベルとして許容濃度を選択することが可能になりました。 【初級】	<ul style="list-style-type: none"> 液体・粉体作業 粉じん作業 	<ul style="list-style-type: none"> 液体・粉体作業 粉じん作業
爆発・火災等のリスクアセスメントのためのスクリーニング支援ツール	危険性	化学物質や作業に潜む代表的な危険性やリスクを簡便に「知る」ことに着目した支援ツール。ガイドブックでは、化学物質の危険性に関する基本的な内容に加え、代表的なリスク低減対策についても整理されているため、教科書として危険性に関する基礎を学ぶことが可能。 【初級】	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル 入門ガイド <ul style="list-style-type: none"> 概要版 全体版 	<ul style="list-style-type: none"> 爆発・火災等
作業別モデル対策シート	有害性	主に中小規模事業者など、リスクアセスメントを十分に実施することが難しい事業者を対象に、専門性よりも分かりやすさや簡潔さを優先させ、チェックリスト、危険やその対策を記載したシート。リスクレベルは考慮せずに作業毎に代表的な対策を記載。平成31年3月に粉じん作業を中心に拡充、更新を行った。 【初級】	-	<ul style="list-style-type: none"> 作業別モデル対策シート

「リスクアセスメント支援ツール」には、今回説明するCREATE-SIMPLE(クリエイト・シンプル)以外にも、様々な手法のリスクアセスメント用のツールが掲載されています。

「リスクアセスメント支援ツール」の画面を少し下方にスクロールする。

上から4つ目に、今回説明するCREATE-SIMPLE(クリエイト・シンプル)が掲載されています。

CREATE-SIMPLE(クリエイト・シンプル)	有害性・危険性	サービス業や試験・研究機関などを含め、あらゆる業種の化学物質取扱事業者に向けた簡易なリスクアセスメントツール。取扱い条件(取扱量、含有率、換気条件、作業時間・頻度、保護具の有無等)から推定したばく露濃度とばく露限界値(またはGHS区分情報)を比較する方法。平成31年3月に、経皮吸収による健康リスクと危険性のリスクを同時に見積もることが可能となりました。 【初級】	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル 設計基準 	<ul style="list-style-type: none"> CREATE-SIMPLE_ver3.0.4(2024.12更新)
---	---------	---	---	---

CREATE-SIMPLE (ク
リエイト・シンプ
ル) を選択

CREATE-SIMPLE
(クリエイト・シンプ
ル)

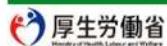
有害性
・
危険性

サービス業や試験・研究機関などを含め、あらゆる業種の化学物質取扱事業者に向けた簡易なリスクアセスメントツール。取扱い条件(取扱量、含有率、換気条件、作業時間・頻度、保護具の有無等)から推定したばく露濃度とばく露限界値(またはGHS区分情報)を比較する方法。平成31年3月に、経皮吸収による健康リスクと危険性のリスクを同時に見積もることが可能となりました。
【初級】

・ [マニュアル](#)
・ [設計基準](#)

・ [CREATE-SIMPLE_ver3.0.4](#)
(2024.12更新)

【参考】
こちらの各項目を選択することで、この画面からCREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) のファイルやマニュアルを直接ダウンロードすることもできます。



職場の安全を応援する情報発信サイト/

職場のあんぜんサイト

▶ HOME ▶ お問い合わせ ▶ サイトマップ 検索

労働災害統計

労働災害事例

各種教材・ツール

化学物質

ホーム > 化学物質のリスクアセスメント実施支援 > CREATE-SIMPLE

CREATE-SIMPLE

CREATE-SIMPLE

対象:有害性(吸入、経皮吸収)・危険性

CREATE-SIMPLE (Chemical Risk Easy Assessment Tool, Edited for Service Industry and MultiPLE workplaces; クリエイト・シンプル) は、サービス業などを含め、あらゆる業種にむけた簡単な化学物質リスクアセスメントツールです。

ばく露限界値(またはGHS区分情報に基づく管理目標濃度)と化学物質の取扱い条件等から推定したばく露濃度を比較する方法となっています。英国安全衛生庁(HSE)が作成した、HSE COSHH essentialsなどに基づく、リスクアセスメント手法における考え方を踏まえた、大量(数kL、数トン)の化学物質取扱事業者から極少量(数ml、数g)の化学物質を取扱う事業者まで、業種を問わず幅広い事業者が使用可能な簡易なリスクアセスメント支援ツールです。

また新機能として、米国NIOSHの手法などを踏まえたばく露限界値から算出した経皮ばく露限界値と取扱条件等から算出した経皮吸収量を比較する方法により、経皮吸収による有害性のリスクを見積もるとともに、GHS区分情報と取扱条件(着火源の有無等)から取扱物質の危険性についてもリスクを見積もる機能を追加した画期的な簡易なリスクアセスメント支援ツールです。

特徴

- ・ 労働者の化学物質へのばく露濃度等を測定しなくても使用できる。
- ・ 大量(数kL、数トン)から極少量(数mL、数g)まで幅広い化学物質取扱量に対応
- ・ 選択肢から回答を選ぶだけで、簡単にリスクを見積もることが可能。
- ・ リスク低減措置の検討も支援しており、どこを改善すればリスクが下がるかが確認可能。
- ・ 厚生労働省版コントロール・バンディングでは考慮していない作業条件(換気や作業時間、作業頻度など)の効果も反映。
- ・ 吸入による有害性リスクだけではなく、経皮吸収による有害性リスクや危険性についてもリスクの見積もりが可能。

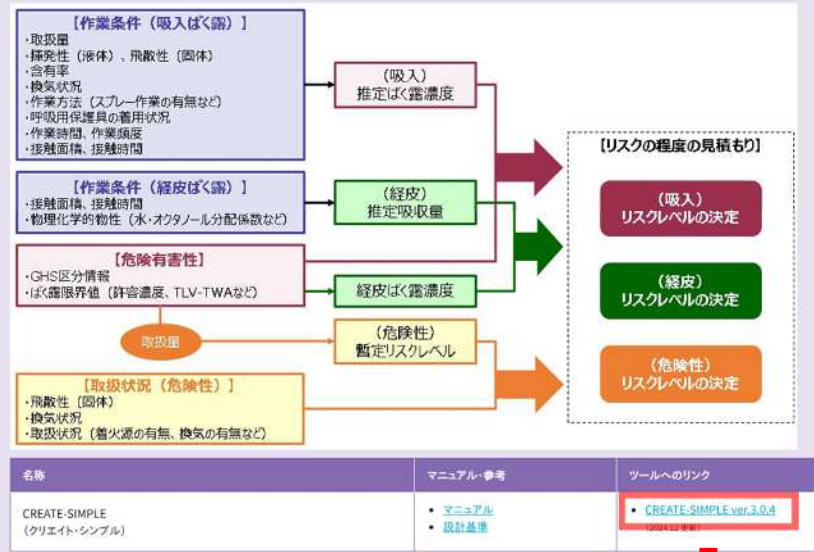
今回説明するCREATE-SIMPLE (ク
リエイト・シンプル) の特徴や
使用上の注意点、運用の流れ等
が解説されています。

画面を下方にスクロールする。

注意点

- 何らかの理由によりばく露が大きくなるような作業については、リスクを過小に見積る可能性がある。
- 危険性については、プロセスについては対象外としており、化学物質が潜在的に有する危険性に気づくことを主目的としているため、プロセスで用いる場合などは、労働安全衛生総合研究所が作成した「安衛研 リスクアセスメント等実施支援ツール」などをご利用ください。

CREATE-SIMPLEの流れは次のとおりです。



Copyright © Ministry of Health, Labour and Welfare, All Right reserved.

CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) の特徴や使用上の注意点、運用の流れ等が解説されています。

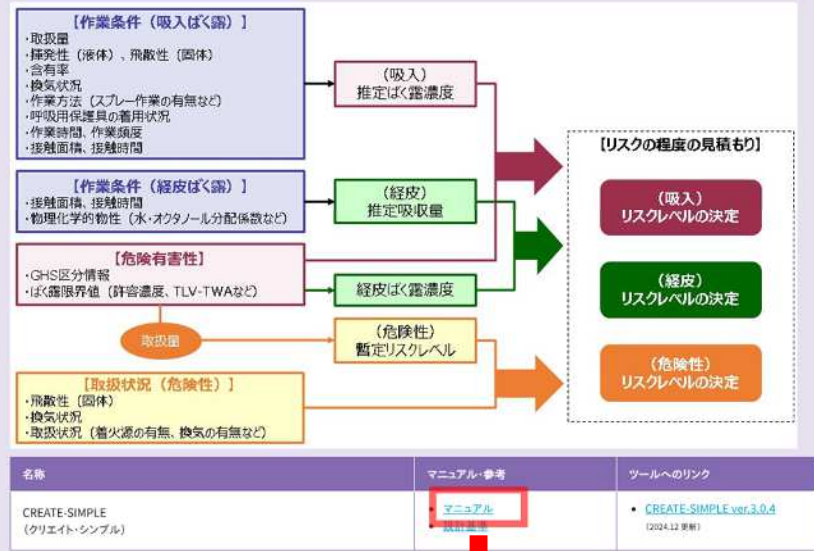
名称 (リンクをクリックすると概要説明に移動します)	対象	特色	マニュアル・参考	ツールへのリンク
厚生労働省が作成した「労働安全衛生法に基づく労働安全衛生管理のための簡易リスクアセスメントツール」	有害性	ILO (国際労働機関) が中小企業向けに作成した作業者の安全管理のための簡易リスクアセスメントツールをわが国で簡易的に利用できるように厚生労働省がWeb システムとして改良、開発したものの、液体・粉体作業用と主に粉じん剤に定める粉じん作業用の2つのシステムあり、化学物質の有害性情報、取扱い物質の揮発性・可燃性、取扱量から簡単にリスクの見積もりが可能。平成31年3月から、「液体・粉体作業」でもハードレベルとして許容濃度を選択することが可能になりました。【初級】	<ul style="list-style-type: none"> 液体・粉体作業 粉じん作業 	<ul style="list-style-type: none"> 液体・粉体作業 粉じん作業
健康・火災等のリスクアセスメントのためのスクリーニング支援ツール	危険性	化学物質や作業に關む代表的な危険性やリスクを簡便に「知る」ことに着目した支援ツール。ガイドブックでは、化学物質の危険性に関する基本的な内容に加え、代表的なリスク低減対策についても整理されているため、教科書として危険性に関する基礎を学ぶことが可能。【初級】	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル 入門ガイド <ul style="list-style-type: none"> 概要版 全巻版 	<ul style="list-style-type: none"> 健康・火災等
作業別モデル対策シート	有害性	主に中小規模事業者など、リスクアセスメントを十分に実施することが難しい事業者を対象に、専門性よりも分かりやすさや簡潔さを優先させ、チェックリスト、危険やその対策を記載したシート、リスクレベルは考慮せずに作業毎に代表的な対策を記載、平成31年3月に粉じん作業を中心に拡充、更新を行った。【初級】		<ul style="list-style-type: none"> 作業別モデル対策シート
CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル)	有害性・危険性	サービス業や試験・研究機関などを含め、あらゆる業種の化学物質取扱事業者に向けた簡易なリスクアセスメントツール。取扱い条件(取扱量、含有率、換気条件、作業時間・頻度、保護員の有無等)から推定したばく露濃度とばく露限界値(またはGHS区分情報)を比較する方法。平成31年3月に、経皮吸収による健康リスクと危険性のリスクを同時に見積もることが可能となりました。【初級】	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル 設計基準 	<ul style="list-style-type: none"> CREATE-SIMPLE ver.3.0.4
検知管を用いた化学物質のリスクアセスメントガイドブック	有害性	簡易な化学物質の気中濃度測定法のひとつである検知管を用いたリスクアセスメント手法のガイドブック。SDS交付義務対象物質のうち検知管で検知可能な化学物質の一覧や検知管の原理などについても整理されている。Microsoft Excelを活用した評価ツールに測定結果を入力することで、簡便にリスクの見積もりが可能。【中級】	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブック 	<ul style="list-style-type: none"> 支援ツール
簡易な化学物質の気中濃度測定法のひとつであるリアルタイムモニターを用いたリスクアセスメント手法のガイドブック				



注意点

- 何らかの理由によりばく露が大きくなるような作業については、リスクを過小に見積る可能性がある。
- 危険性については、プロセスについては対象外としており、化学物質が潜在的に有する危険性に気づくことを主目的としているため、プロセスで用いる場合などは、労働安全衛生総合研究所が作成した「安衛研 リスクアセスメント等実施支援ツール」などをご利用ください。

CREATE-SIMPLEの流れは次のとおりです。



Copyright © Ministry of Health, Labour and Welfare, All Right reserved.

クリエイト・シンプルを用いた
化学物質のリスクアセスメントマニュアル

ver.3.0対応
2024年12月

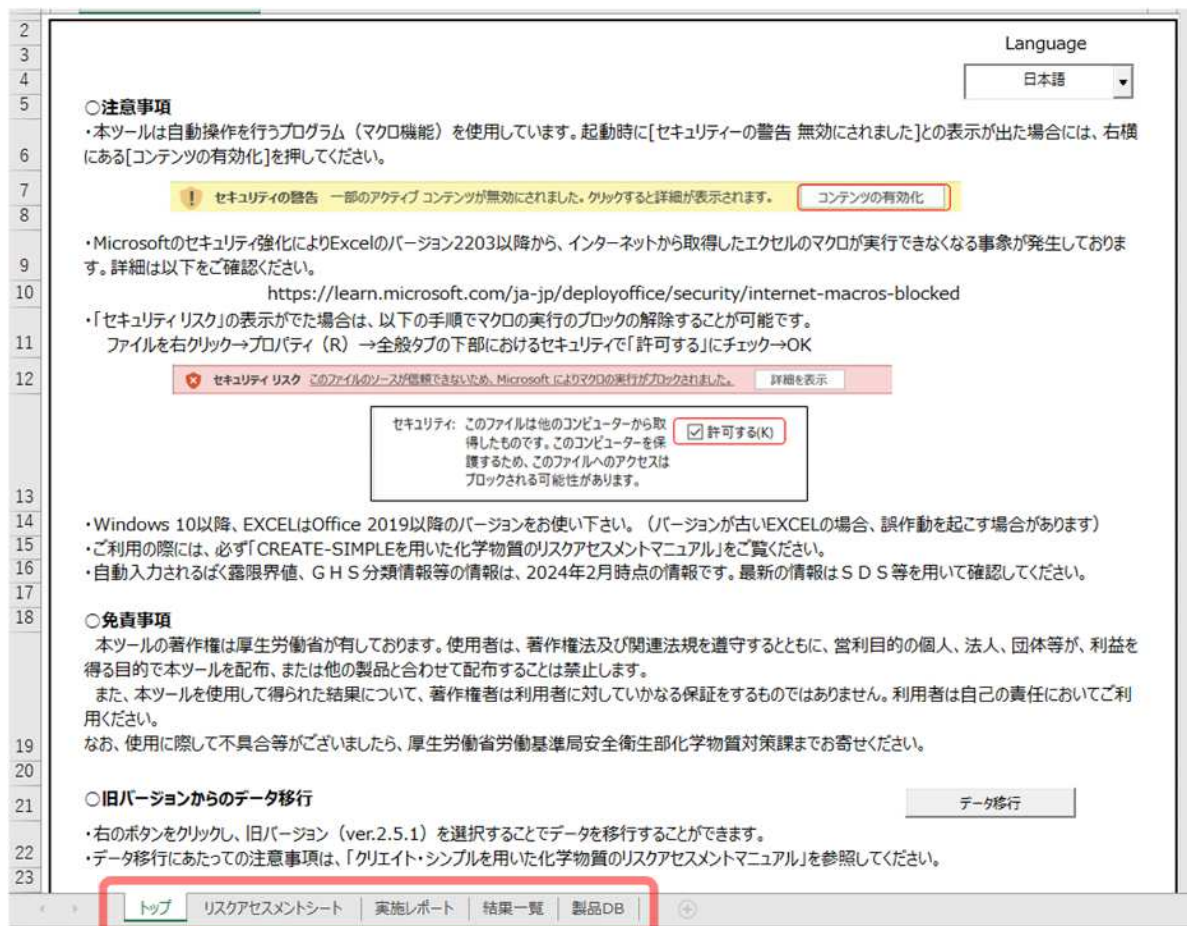
下記URLの動画も合わせてご覧ください。
https://www.youtube.com/watch?v=clZHOCcGQ5g

名称 (リンクをクリックすると概要説明に移動します)	対象	特色	マニュアル・参考	ツールへのリンク
厚生労働省が中心に開発されたリスクアセスメントツール	有害性	ILO(国際労働機関)が中小企業向けに作成した作業者の安全管理のための簡易リスクアセスメントツールをわが国で簡易的に利用できるように厚生労働省がWebシステムとして改良、開発したもので、液体・粉体作業用と主に粉じん用に定める粉じん作業用の2つのシステムあり、化学物質の有害性情報、取扱い物質の揮発性・可燃性、取扱量から簡単にリスクの見積もりが可能。平成31年3月から、「液体・粉体作業」でもハードレベルとして許容濃度を選択することが可能になりました。【初級】	<ul style="list-style-type: none"> 液体・粉体作業 粉じん作業 	<ul style="list-style-type: none"> 液体・粉体作業 粉じん作業
爆発・火災等のリスクアセスメントのためのスクリーニング支援ツール	危険性	化学物質や作業に關する代表的な危険性やリスクを簡便に「知る」ことに着目した支援ツール。ガイドブックでは、化学物質の危険性に関する基本的な内容に加え、代表的なリスク低減対策についても整理されているため、教科書として危険性に関する基礎を学ぶことが可能。【初級】	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル 入門ガイド 編集版 全巻版 	<ul style="list-style-type: none"> 爆発・火災等
作業別モデル対策シート	有害性	主に中小規模事業者など、リスクアセスメントを十分に実施することが難しい事業者を対象に、専門性よりも分かりやすさや簡潔さを優先させ、チェックリスト、危険やその対策を記載したシート、リスクレベルは考慮せずに作業毎に代表的な対策を記載、平成31年3月に粉じん作業を中心に拡充、更新を行った。【初級】		<ul style="list-style-type: none"> 作業別モデル対策シート
CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル)	有害性・危険性	サービス業や試験・研究機関などを含め、あらゆる業種の化学物質取扱事業者に向けた簡易なリスクアセスメントツール。取扱い条件(取扱量、含有率、換気条件、作業時間・頻度、保護員の有無等)から推定したばく露濃度とばく露限界値(またはGHS区分情報)を比較する方法。平成31年3月に、経皮吸収による健康リスクと危険性のリスクを同時に見積もることが可能となりました。【初級】	<ul style="list-style-type: none"> マニュアル 設計基準 	<ul style="list-style-type: none"> CREATE-SIMPLE ver.3.0.4 (2024.12 更新)
検知管を用いた化学物質のリスクアセスメントガイドブック	有害性	簡易な化学物質の気中濃度測定法のひとつである検知管を用いたリスクアセスメント手法のガイドブック。SDS交付義務対象物質のうち検知管で検知可能な化学物質の一覧や検知管の原理などについても整理されている。Microsoft Excelを活用した評価ツールに測定結果を入力することで、簡便にリスクの見積もりが可能。【中級】	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブック 	<ul style="list-style-type: none"> 支援シート
		簡易な化学物質の気中濃度測定法のひとつであるリアルタイムモニターを用いたリアルタイムモニタリングのガイドブック。リアルタイム		

CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) の使用方法を解説した「マニュアル」やより詳細な設計を記した「設計基準」もダウンロードできます。まずは、「マニュアル」を見ながらリスクアセスメントを進めてください。(本資料では、「マニュアル」の内容を、少しかみ砕いた形で説明したうえで、実際に操作を行った画面を紹介しています。)

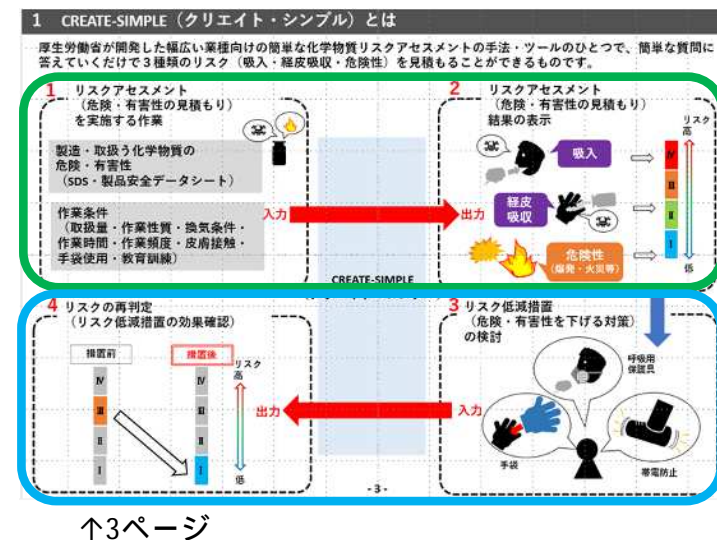
3 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) の構成

CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) のエクセルファイルを開くと、5つのシートから構成されていることが分かります。各シートにはそれぞれ役割がありますが、初めてリスクアセスメントを行う場合は、「**リスクアセスメントシート**」と「**実施レポート**」の操作方法を覚えてください。



リスクアセスメントシート

製造・取扱う化学物質の危険・有害性や作業条件を入力することでリスクアセスメント（危険・有害性の見積もり）を行うシート。



実施レポート

リスクアセスメントの結果を踏まえて、リスク低減措置を検討し、リスクの再判定を行うシート。

トップ

リスクアセスメントシート

実施レポート

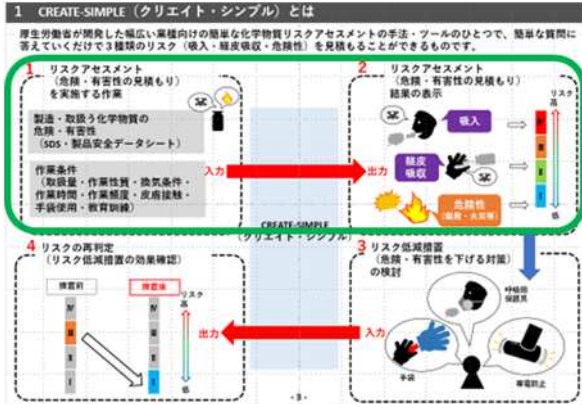
結果一覧

製品DB

リスクアセスメントシート

製造・取扱う化学物質の危険・有害性や作業条件を入力することでリスクアセスメント（危険・有害性の見積もり）を行うシート。

↓3ページ



「リスクアセスメントシート」はSTEP1～3について、必要事項の入力を行うと、STEP4で判定されたリスクが表示される仕組みとなっています。

また、STEP1で「吸入」「経皮吸収」「危険性」のどの項目についてリスクアセスメントを行うかを選択し（複数選択可）、その結果がSTEP4の判定に反映されます。

（STEP1～3でリスク判定に必要な項目の入力を行うことが前提です。）

CREATE-SIMPLE ver 3.0

CREATE-SIMPLE ver 3.0
～サービス業などの職場における簡単な化学物質リスクアセスメントツール～

No. 2
実施日 2025/1/20
実施者

結果导出 入力内訳クリア

[STEP 1] 対象製品の基本情報を入力しましょう。

製品IDから入力

タイトル	
実施場所	
製品ID等	
製品名称	
作業内容等	
備考	

リスクアセスメント対象 吸入 経皮吸収 危険性 (爆発・火災) 性状 液体 固体 気体 成分数 1

[STEP 2] 取扱い物質に関する情報を入力してください。

CAS RNで検索 物質一覧から選択 CAS RN一括入力 1 編集 詳細を表示

No.	CAS RN	物質名	濃度 [wt%]
1			

[STEP 3] 以下の作業内容に関する質問に答えましょう。

保存

Q1 製品の取扱量はどのくらいですか。
Q2 スプレー作業など空気中に飛散しやすい作業を行っていますか。
Q3 化学物質を散布する合計距離は1m以上ですか。
Q4 作業時の換気状況はどのくらいですか。
Q5 1日あたりの化学物質の作業時間 (ばく露時間) はどのくらいですか。
Q6 化学物質の取り扱い頻度はどのくらいですか。
Q7 作業内容にばく露濃度の変動の大きい作業はどのくらいですか。
Q8 化学物質が皮膚に接触する頻度はどのくらいですか。
Q9 取扱い化学物質に濡れた手袋を再利用していますか。
Q10 手袋の適切な使用方法に関する教育は行っていますか。
Q11 化学物質の取扱要領はどのくらいですか。
Q12 着火源を取除く対策はしていますか。
Q13 燃発性物質の取扱い防止対策を実施していますか。
Q14 近傍で可燃物や可燃物の取扱いがありますか。
Q15 取扱いが空気又は水に接触する可能性がどのくらいですか。

備考 (任意)

STEP 4 リスクの判定

リスクを判定 実施レポートに出力

リスクレベル	ばく露評価値 (管理目標値)			換気評価値 (換気目標)			合計 (吸入+経皮)	危険性 (爆発・火災等)
	吸入 (ばく露)	吸入 (ばく露)	経皮吸収	吸入 (ばく露)	吸入 (ばく露)	経皮吸収		
1								

判定結果

有害性	
危険性 (爆発・火災等)	

STEP1 リスク対象物の基本情報の入力

名称・場所・物質の性状（液体・粉体・気体）・リスクアセスメントを行う対象（吸入・経皮吸収・危険性）



STEP2 成分に関する情報の入力

検索・SDSから入力



STEP3 物質情報、作業条件等の入力



取扱量、特殊作業（スプレー・塗布）、換気条件、作業頻度・時間、ばく露の変動の大きさ



皮膚接触面積、手袋着用、教育



取扱温度、着火源、爆発性雰囲気、有機物・金属取扱い、空気や水との接触状況

STEP4 リスクの判定（5種類）

吸入は 2種類

短時間 8時間

合計

経皮吸収

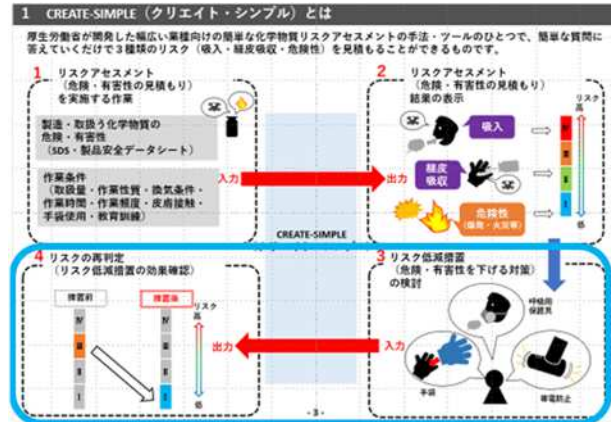
危険性

V
III
II
I

実施レポート

リスクアセスメントの結果を踏まえて、リスク低減措置を検討し、リスクの再判定を行うシート。

↓3ページ



「実施レポート」は「リスクアセスメントシート」のSTEP4で判定されたリスクを基に、リスク低減対策を検討し、検討結果を踏まえてリスクの再判定を行う仕組みとなっています。

リスクの再判定を行った際には、有害性等に対する対応上の注意点にかかるコメントも表示されます。

下方の詳細なリスクアセスメント結果以下の項目は、結果の記録を操作者自身が入力し保存するものです。

リスクアセスメント実施レポート

No. 1
実施日
実施者

PDFに保存 結果呼出 入力内容クリア

● 説明
● リスクアセスメントシートで実施した結果が表示されます。
● このシートでリスク低減措置の内容を確認し、実施者に再入力を行います。

基本情報

タイトル	
実施条件	
実施日時	
実施場所	
作業内容等	
備考	

No.	CAS RN	物質名	濃度 [wt%]
1			

リスク低減対策の検討

※ リスク低減対策の検討はQ1～Q15の選択が必要。【無害/リスク判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。

項目	選択	対策	対策後	リスク低減対策の検討
Q1. 取扱い				
Q2. スプレー作業の有無				
Q3. 湿布面積 [m ²]				
Q4. 浸染レベル				
Q5. 取扱いの頻度				
Q6. 作業時間				
Q7. ばい塵の吸込の大きさ [オプショナル] 呼吸用保護具				
Q8. フロートシートの方法				
Q9. 距離確保				
Q10. 化学防護手袋				
Q11. 取扱いの教育				
Q12. 取扱いの対策				
Q13. 揮発性有機溶剤の防止				
Q14. 呼吸器、皮膚の保護				
Q15. 空気、水との接触				

備考 (任意)

リスクの再判定結果

ばい塵/揮発性 (管理目標値)			揮発性/皮膚接触			吸入			リスクレベル		
吸入 (目標値)	吸入 (目標値)	経皮/呼吸	吸入 (目標値)	吸入 (目標値)	経皮/呼吸	吸入 (目標値)	吸入 (目標値)	経皮/呼吸	合計 (吸入+経皮)	危険性 (健康・火災等)	
1											

再判定結果

有害性	
危険性 (健康・火災等)	

詳細なリスクアセスメントの実施結果

有害性	手法	実施日	判定結果	備考

危険性 (健康・火災等)	手法	実施日	判定結果	備考

リスク低減措置の検討結果

検討したリスク低減措置の内容、実施時期等

備考

STEP5 リスク低減措置の内容検討支援

「リスクアセスメントシート」に入力した作業条件 (STEP3) リスク判定結果 (STEP4) が表示される。

検討するリスク低減対策を入力する (呼吸用保護具はここで初めて入力可能。)

「リスクの再判定」を選択

表示される内容
リスクの再判定結果
再判定を行った作業条件
有害性・危険性への対応に関するコメント

詳細なリスクアセスメント結果や検討したリスク低減措置の内容、実施時期等を入力する。

4 CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) を使ったリスクアセスメントの実施

それでは、CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) を使用して、実際にリスクアセスメントとリスク低減対策の検討、そしてリスクの再判定を行っていきましょう。

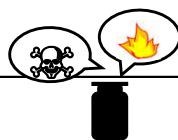
作業内容

業務用クレンザーを使用した
用具の手洗い洗浄作業



業務用
クレンザー

【業務用クレンザーについて (抜粋)】



成分：2,2'-イミノジエタノール 1.0%

危険性・有害性：

皮膚腐食性 / 刺激性：区分2

特定標的臓器毒性：区分1 等

適用法令

安衛法 通知対象物質 (法第57条第1項...)

危険性又は有害性を調査すべきもの

(法第57条第3項)

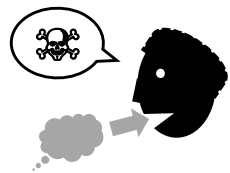
リスクアセスメント
対象物

作業条件

	質問	回答
1	取扱量	微量 (10ml以上 ~ 100ml未満)
2	スプレー作業等	いいえ
3	塗布面積	いいえ (1m ² 以上では無い)
4	換気状況	換気レベルB (全体換気)
5	作業時間 (日)	30分超 ~ 1時間以下
6	頻度	週1回以上 → 5日 / 週
7	ばく露濃度変動	変動が大きい作業
8	皮膚接触面積	両手及び手首
9	手袋着用	手袋の着用を行っていない
10	教育	教育や訓練を行っていない
11	取扱温度	室温
12	着火源対策	はい
13	爆発性雰囲気	いいえ
14	有機物・金属	はい
15	空気・水接触	はい

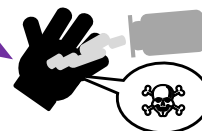
CREATE-SIMPLE (クリエイト・シンプル) で判定できる3種類全てのリスク判定を行います。

リスクアセスメント
対象



吸入

経皮
吸収



危険性
(爆発・火災等)

CREATE-SIMPLE ver 3.0

- サービス業など幅広い職場にむけた簡単な化学物質リスクアセスメントツール -

- 説明 -

- リスクアセスメントとは、労働者の安全や健康への影響について評価をすることです。
- CREATE-SIMPLEは、労働者の健康（吸入・経皮）への影響と物質の危険性について評価し、対策の検討を支援します。
- SDSを確認して対象物質を決定し、以下のSTEP1から順番に入力してください。

No	1
実施日	2025/1/20
実施者	xxx

結果呼出 入力内容クリア

【STEP 1】対象製品の基本情報を入力しましょう。

タイトル	業務用クレンザーを使用した用具の手洗い洗浄		
実施場所	作業室A		
製品ID等			
製品名等	液体クレンザー（B社製・商品名●●●●）		
作業内容等	汚れた用具を液体クレンザーと流水で洗浄する作業		
備考			
リスクアセスメント対象	<input checked="" type="checkbox"/> 吸入	<input checked="" type="checkbox"/> 経皮吸収	<input checked="" type="checkbox"/> 危険性（爆発・火災）
性状	<input checked="" type="radio"/> 液体	<input type="radio"/> 粉体	<input type="radio"/> 気体
成分数	1		

製品DBから入力

POINT1

POINT2

STEP1 リスク対象物の基本情報の入力

名称、場所、取扱製品（化学物質含有）、作業内容、物質の性状（液体・粉体・気体）等を入力します。

POINT1

リスクアセスメントを行う対象（危険性・有害性）を選択します（複数選択可）。



POINT2

リスクアセスメントを実施する物質の数を入力します。取り扱う製品に複数の化学物質が含まれている場合は、その数を入力します。

実施場所	
製品ID等	
製品名等	
作業内容等	
備考	
リスクアセスメント対象	<input checked="" type="checkbox"/> 吸入 <input checked="" type="checkbox"/> 経皮吸収 <input checked="" type="checkbox"/> 危険性（爆発・火災）

POINT3

【STEP 1】対象製品の基本情報を入力してください。

CAS RNで検索 物質一覧から選択 CAS RN一括入力 1 編集

No	CAS RN	物質名
1	111-42-2	2, 2'-イミノジエタノール

物質の選択

No.	CAS RN	物質名
50-00-0		ホルムアルデヒド
50-01-1		クアニン・塩酸塩
50-06-6		アセトヒドラル
50-18-0		シクロヘキサメチル無水物
50-21-5		乳酸 (DL-, L-, D-)
50-29-3		1,1,1-トリクロロ-2,2-ビス(4-クロロフェニル)エタン (DDT)
50-31-7		2,3,6-トリクロロ安息香酸
50-32-8		ベンゾ[e]ピレン
50-44-2		6-メチルカプトラン
50-78-2		アセチルサリチル酸
51-03-6		5-プロピル-1-イール-6-(2, 5, 8-トリオキサドデカン-1-イール)-1, 3-ベンゾジオキソール (別名: ビバロニル)
51-21-8		5-フルオロウラシル
51-28-5		2,4-ジニトロフェノール
51-48-9		デロキシン

入力 キャンセル

【STEP 2】取扱い物質に関する情報を入力してください。

物質一覧から選択	CAS RN一括入力	1	編集	▲非表示	
1	111-42-2	2, 2'-イミノジエタノール	含有率 [wt%]	POINT4	
GHS分類		ばく露限界値	物理化学的性状	揮発性/飛散性	備考
皮膚腐食性/刺激性: 区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分1 皮膚感作性: 区分1A 発がん性: 区分2 生殖毒性: 区分2 特定標的臓器毒性 (単回暴露): 区分1 特定標的臓器毒性 (反復暴露): 区分1			性状: 液体 分子量: 105.14 沸点: 269 °C オクタノール/水分配係数: -1.43 引火点: 152 °C 水溶解度: 1000000 mg/L 蒸気圧: 0.0002801 mmHg	極低揮発性 (蒸気圧: 0.5 Pa未満)	皮膚等障害化学物質 濃度基準値設定物質

POINT5

POINT4

STEP2 成分に関する情報の入力

製造・取扱う化学物質とその含有率を入力します。（製品のSDS（製品安全データシート）等を確認し物質名や含有率を入力してください。）

POINT3

CAS番号や名称検索により化学物質を検索・選択できます。今回は「物質一覧から選択」をクリックし、名称画面から検索を行います。

POINT4

取扱製品内の化学物質の含有率をSDS（製品安全データシート）等で確認し、パーセントを入力します。今回は、含有率が1%ですので、「1」と入力します。

POINT5

POINT2で「2」以上の数字を入力した場合、入力した数字に応じた化学物質の検索・選択、含有率の入力を行います。今回は1物質のみです。

Q1 製品の取扱量はどのくらいですか。

Q2 スプレー作業など空気中に飛散しやすい作業を行っていますか。

Q3 化学物質を塗布する合計面積は1m2以上ですか。

Q4 作業場の換気状況はどのくらいですか。

POINT6

Q5 1日あたりの化学物質の作業時間 (ばく露時間) はどのくらいですか。

Q6 化学物質の取り扱い頻度はどのくらいですか。
 → 日/週

Q7 作業内容のばく露濃度の変動の大きさはどのくらいですか。

POINT7

Q8 化学物質が皮膚に接触する面積はどれくらいですか。

Q9 取り扱う化学物質に適した手袋を着用していますか。

Q10 手袋の適正な使用方法に関する教育を行っていますか。

POINT8

Q11 化学物質の取扱温度はどのくらいですか。

Q12 着火源を取り除く対策は講じていますか。

Q13 爆発性雰囲気形成防止対策を実施していますか。

Q14 近傍で有機物や金属の取扱いがありますか。

Q15 取扱物質が空気又は水に接触する可能性がありますか。

備考 (任意)

回答内容の詳細については、「職場のあんぜんサイト」からダウンロードできる、「クリエイティブ・シンプルを用いた化学物質のリスクアセスメントマニュアル (マニュアル)」と「CREATE-SIMPLEの設計基準 (設計基準)」で確認できます。

STEP3 物質情報、作業条件等の入力

Q1 ~ 15の作業内容に関する質問に答えていきます。

POINT6

換気レベルをA (悪) ~ F (良) の6段階で入力してください。

目安としては、

換気のない密閉された部屋 …… A

窓やドアが開いている部屋、一般的な換気扇のある部屋、ビル内で全体空調がある部屋、大空間の屋内の一部

…… B

工業的な全体換気装置のある部屋

屋外作業 …… C

プッシュプル型換気装置 …… D

今回は、一般的な換気扇のある部屋の作業であることから「B (全体換気)」を選択。

詳細は「設計基準」の17ページを参照してください。

POINT7

ばく露の変動が小さい作業 (例)

製造ラインにおける製品の自動洗浄

性能等が確保された局所排気装置が設置されている作業場における洗浄作業

ばく露の変動が大きい作業 (例)

局所排気装置が設置されていない、又は性能等が確保されていない作業場における化学品の投入・計量、手作業による洗浄作業

今回は、局所排気装置が設置されていない作業場における手作業による洗浄作業のため「大きい」を選択。

POINT8

一例としては、

(基本的な教育)

保護具着用管理責任者による化学防護手袋の取扱方法に関する労働者への指導。

(十分な教育・訓練)

取扱説明書に記載されている耐透過性クラス等を参考として、作業に対して余裕のある使用時間を設定し、その範囲内で化学防護手袋を使用させる。

詳細は「設計基準」の27ページを参照してください。

Q1 製品の取扱量はどのくらいですか。

Q2 スプレー作業など空气中に飛散しやすい作業を行っていますか。

Q3 化学物質を塗布する合計面積は1m²以上ですか。

Q4 作業場の換気状況はどのくらいですか。

Q5 1日あたりの化学物質の作業時間 (ばく露時間) はどのくらいですか。

Q6 化学物質の取り扱い頻度はどのくらいですか。
 → 日/週

Q7 作業内容のばく露濃度の変動の大きさはどのくらいですか。

Q8 化学物質が皮膚に接触する面積はどれくらいですか。

Q9 取り扱う化学物質に適した手袋を着用していますか。

Q10 手袋の適正な使用方法に関する教育を行っていますか。

Q11 化学物質の取扱温度はどのくらいですか。
 POINT9

Q12 着火源を取り除く対策は講じていますか。
 POINT9

Q13 爆発性雰囲気形成防止対策を実施していますか。

Q14 近傍で有機物や金属の取扱いがありますか。
 POINT10

Q15 取扱物質が空気又は水に接触する可能性がありますか。

備考 (任意)

POINT9

着火源となりうる裸火や静電気などを取り除く対策がとれているかにより選択してください。

静電気対策が講じられている

近傍に裸火や高温部は存在しない

金属同士の接触等火花が生じる恐れのある作業は行っていない

取扱う化学物質に摩擦や強い衝撃を与えるおそれのある作業は行っていない。

詳細は、「マニュアル」の21から22ページ、「設計基準」の40ページを参照してください。

POINT10

「爆発性雰囲気」とは、可燃性物質である引火性液体の蒸気やミスト、可燃性ガスが存在し、そこに着火源となる電気火花や高温部が共存したときに、爆発や火災のリスクが生じる状況のことです。

対策の一例としては、

不要な可燃性ガス・液体の残留を除去する

換気によって可燃性ガス・上記の放出を管理する

詳細は、「マニュアル」の21・23ページ、「設計基準」の40ページを参照してください。

STEP 4 リスクの判定

リスクを判定 実施レポートに出力

1	ばく露限界値 (管理目標濃度)			推定ばく露濃度			リスクレベル			危険性 (爆発・火災等)	
	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収		合計 (吸入+経皮)

判定結果

有害性

危険性
(爆発・火災等)

STEP 4 リスクの判定

リスクを判定 実施レポートに出力

1	ばく露限界値 (管理目標濃度)			推定ばく露濃度			リスクレベル			危険性 (爆発・火災等)	
	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収		合計 (吸入+経皮)
	111-42-2	2, 2'-イミダジエタノール		0.01~0.1 ppm	0.1 ppm	1620 mg/day	II-A	I	IV	IV	I

判定結果

有害性
濃度基準値設定物質の長時間（8時間）ばく露の評価結果は良好です。換気、機器や器具、作業手順などの管理に努めましょう。
濃度基準値設定物質の短時間の評価結果は十分に良好です。
皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルに従い、適切な皮膚障害等防止用保護具を着用しましょう。

危険性
(爆発・火災等)
引火のおそれがあるため、着火源の除去、爆発性雰囲気形成防止対策の管理を引き続き実施しましょう。

STEP4 リスクの判定 (5種類)

STEP1~3の各項目を入力を行ったうえで、「リスクを判定」をクリックすると、「リスクレベル」、「判定結果」が表示されます。

今回リスクアセスメントを行った作業のリスク判定結果

8時間 **-A (小さなリスク)**

吸入は2種類 短時間 **(些細なリスク)**

経皮吸収 **(至急リスクを下げる対策を実施しましょう)**

合計 **(大きなリスク)**

危険性 **(些細なリスク)**

リスク判定は通常4段階ですが、吸入（8時間）は が2段階「-A (小さなリスク)」と「-B (懸念されるリスク)」に分かれ、5段階の判定となります。

リスクアセスメントを行った結果、リスクレベルが と判定された「経皮吸収」と「合計」については大きなリスクであり、至急対策を検討する必要があります。
また、-Aと判定された「吸入（8時間）」についても、リスクレベルを にするための対策を検討する必要があります。

	吸入		経皮吸収	合計 (吸入+経皮)	危険性 (爆発・火災等)
	8時間	短時間			
	大きなリスク		至急リスクを下げる対策を実施しましょう。	大きなリスク	
	中程度のリスク		リスクを下げる対策を実施しましょう。	中程度のリスク	
	-B懸念されるリスク	小さなリスク	良好です。機器や器具、作業手順などの管理に努めましょう。	小さなリスク	
	-A小さなリスク				
	些細なリスク		十分に良好です。	些細なリスク	

STEP 4 リスクの判定

	ばく露限界値 (管理目標濃度)			推定ばく露濃度			リスクレベル				
	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	合計 (吸入+経皮)	危険性 (爆発・火災等)
1	111-42-2 2, 2'-イミノジエタノール 皮膚等障害化学物質、濃度基準値設定物質、リスクレベルS										
	0.05~0.5 ppm	1.5 ppm	16.11 mg/day	0.01~0.1 ppm	0.1 ppm	1620 mg/day	II-A	I	IV	IV	I

判定結果

有害性	濃度基準値設定物質の長時間 (8時間) ばく露の評価結果は良好です。換気、機器や器具、作業手順などの管理に努め、濃度基準値設定物質の短時間の評価結果は十分に良好です。皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルに従い、適切な皮膚障害等防止用保護具を着用しましょう。
危険性 (爆発・火災等)	引火するおそれがあるため、着火源の除去、爆発性雰囲気形成防止対策の管理を引き続き実施しましょう。

- トップ
- リスクアセスメントシート
- 実施レポート
- 結果一覧
- 製品DB

「リスクアセスメントシート」のSTEP4でリスクの判定が完了したら、「実施レポートに出力」をクリックします。「実施レポート」を開くと、赤破線内に「リスクアセスメントシート」のSTEP3で入力した作業条件と、STEP4で判定されたリスクレベルがコピーされます。

STEP5 リスク低減措置の内容検討支援

リスクアセスメントシートで判定されたリスクレベルを基に、作業条件の改善を検討すること等によりリスク低減対策を検討しましょう。

リスク低減対策の検討

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1	111-42-2	2, 2'-イミノジエタノール	1

※「リスク低減対策の検討」のQ1~Q15の選択肢を変更し、【再度リスクを判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。

項目	現状	対策後	リスク低減対策の検討
Q1. 取扱量	微量 (10mL以上~100mL未満)	微量 (10mL以上~100mL未満)	微量 (10mL以上~100mL未満)
Q2. スプレー作業の有無	いいえ	いいえ	いいえ
Q3. 垂布面積1m2超	いいえ	いいえ	いいえ
Q4. 換気レベル	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)
Q5. 作業時間	30分超~1時間以下	30分超~1時間以下	30分超~1時間以下
Q6. 作業頻度	5日/週	週1回以上	5 日/週
Q7. ばく露の変動の大きさ	ばく露濃度の変動が大きい作業	ばく露濃度の変動が大きい作業	ばく露濃度の変動が大きい作業
[オプション] 呼吸用保護具	フィットテストの方法		
経皮吸収	Q8. 接触面積	両手及び手首	両手及び手首
	Q9. 化学防護手袋	手袋を着用していない	手袋を着用していない
	Q10. 保護具の教育	教育や訓練を行っていない	教育や訓練を行っていない
危険性	Q11. 取扱温度	常温	常温
	Q12. 着火源の対策	はい	はい
	Q13. 爆発性雰囲気形成防止	いいえ	いいえ
	Q14. 有機物、金属の取扱	はい	はい
	Q15. 空気、水との接触	はい	はい

備考 (任意)

リスクの再判定結果

	ばく露限界値 (管理目標濃度)			推定ばく露濃度			リスクレベル				
	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	合計 (吸入+経皮)	危険性 (爆発・火災等)
1	111-42-2 2, 2'-イミノジエタノール 皮膚等障害化学物質、濃度基準値設定物質、リスクレベルS										
現状	0.05~0.5 ppm	1.5 ppm	16.11 mg/day	0.01~0.1 ppm	0.1 ppm	1620 mg/day	II-A	I	IV	IV	I
対策後											

有害性	濃度基準値設定物質の長時間 (8時間) ばく露の評価結果は良好です。換気、機器や器具、作業手順などの管理に努め、濃度基準値設定物質の短時間の評価結果は十分に良好です。皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルに従い、適切な皮膚障害等防止用保護具を着用しましょう。
危険性 (爆発・火災等)	引火するおそれがあるため、着火源の除去、爆発性雰囲気形成防止対策の管理を引き続き実施しましょう。

- トップ
- リスクアセスメントシート
- 実施レポート
- 結果一覧
- 製品DB

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1	111-42-2	2, 2'-イソノタール	1

リスク低減対策の検討			
※リスク低減対策の検討(Q1~Q15)の選択を変更し、【再度リスクを判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。			
設問	現状	対策後	リスク低減対策の検討
Q1. 取扱量	微量 (10mL以上~100mL未満)	微量 (10mL以上~100mL未満)	微量 (10mL以上~100mL未満)
Q2. スプレー作業の有無	いいえ	いいえ	いいえ
Q3. 容器容量1m ³ 超	いいえ	いいえ	いいえ
Q4. 換気レベル	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)
容器形状の確認			
Q5. 作業時間	30分超~1時間以下	30分超~1時間以下	30分超~1時間以下
Q6. 作業頻度	5日/週	週1回以上	5日/週
Q7. ばく菌の変動の大きさ	ばく菌濃度の変動が大きい作業	ばく菌濃度の変動が大きい作業	ばく菌濃度の変動が大きい作業
[オプション] 呼吸用保護具			
フットテストの方法			
Q8. 接触面積	両手及び手足	両手及び手足	両手及び手足
Q9. 化学防護手袋	手袋を使用していない	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している
Q10. 保護具の教育	教育や訓練を行っていない	十分な教育や訓練を行っている	十分な教育や訓練を行っている
Q11. 取扱業者	専業	専業	て
Q12. 着火源の対策	はい	はい	はい
Q13. 揮発性気象気形成防止	いいえ	いいえ	いいえ
Q14. 可燃物・可燃物の取扱い	はい	はい	はい
Q15. 空気・水との接触	はい	はい	はい

リスクの再判定

リスク低減対策の検討			
※リスク低減対策の検討(Q1~Q15)の選択を変更し、【再度リスクを判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。			
設問	現状	対策後	リスク低減対策の検討
Q1. 取扱量	微量 (10mL以上~100mL未満)	微量 (10mL以上~100mL未満)	微量 (10mL以上~100mL未満)
Q2. スプレー作業の有無	いいえ	いいえ	いいえ
Q3. 容器容量1m ³ 超	いいえ	いいえ	いいえ
Q4. 換気レベル	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)
容器形状の確認			
Q5. 作業時間	30分超~1時間以下	30分超~1時間以下	30分超~1時間以下
Q6. 作業頻度	5日/週	週1回以上	5日/週
Q7. ばく菌の変動の大きさ	ばく菌濃度の変動が大きい作業	ばく菌濃度の変動が大きい作業	ばく菌濃度の変動が大きい作業
[オプション] 呼吸用保護具			
フットテストの方法			
Q8. 接触面積	両手及び手足	両手及び手足	両手及び手足
Q9. 化学防護手袋	手袋を使用していない	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している
Q10. 保護具の教育	教育や訓練を行っていない	十分な教育や訓練を行っている	十分な教育や訓練を行っている
Q11. 取扱業者	専業	専業	て
Q12. 着火源の対策	はい	はい	はい
Q13. 揮発性気象気形成防止	いいえ	いいえ	いいえ
Q14. 可燃物・可燃物の取扱い	はい	はい	はい
Q15. 空気・水との接触	はい	はい	はい

反映

リスクの再判定結果									
ばく菌濃度 (管理目標値)	吸入 (8時間)		経皮吸収		吸入 (30分超)		吸入 (8時間)		リスクレベル
	吸入 (8時間)	経皮吸収	吸入 (30分超)	吸入 (8時間)	吸入 (30分超)	吸入 (8時間)	吸入 (30分超)		
1	111-42-2	2, 2'-イソノタール	0.05~0.5 ppm	1.5 ppm	16.11 mg/day	0.01~0.1 ppm	0.1 ppm	81.1 mg/day	2-A
対策後	0.05~0.5 ppm	1.5 ppm	16.11 mg/day	0.01~0.1 ppm	0.1 ppm	81.1 mg/day	2-A	1	2

再判定

「実施レポート」の緑破線内の「リスク低減対策の検討」で以下の操作を行います。
 リスクアセスメントの際に設定した作業条件を改善する。
 (吸入については)「[オプション]呼吸用保護具」、「フィットテストの方法」を入力する。

まず、経皮吸収に関係する以下の2項目について、作業条件を改善する対策を検討し、入力しました。

設問	現状	リスク低減対策
Q9.化学防護手袋	手袋を使用していない	耐透過性・耐浸透性の手袋の着用している
Q10.保護具の教育	教育や訓練を行っていない	十分な教育や訓練を行っている

「リスクの再判定」をクリックすると、「実施レポート」の紫破線内の「対策後」に「リスク低減対策の検討」に入力した内容が反映(変更部分は黄色の網掛けで表示)され、さらに、「リスク再判定結果」に、検討したリスク低減対策を踏まえたリスクレベルが表示されます。

リスク再判定の結果

		現状	対策後
吸入	8時間	-A 小さなリスク	-A 小さなリスク
	短時間	些細なリスク	些細なリスク
経皮吸収		至急リスクを下げる対策を実施しましょう	リスクを下げる対策を実施しましょう
合計		大きなリスク	中程度のリスク
危険性		些細なリスク	些細なリスク

リスク再判定を行った結果、「経皮吸収」と「合計」のリスクレベルは下がったものの、であることから、更に有効な対策を検討する必要があります。

また、「吸入(8時間)」は -Aのままであることから、引き続きリスクレベルにするための対策を検討する必要があります。

No	CAS RN	物質名	含有率 [wt%]
1	111-42-2	2, 2'-イミノシエタノール	1

リスク低減対策の検討

※「リスク低減対策の検討」のQ1～Q15の選択肢を変更し、【再度リスクを判定】をクリックすることによって、リスク低減対策後の結果が表示されます。

リスクの再判定

設定	現状	対策後	リスク低減対策の検討
Q1. 取扱量	微量 (10mL以上～100mL未満)	微量 (10mL以上～100mL未満)	微量 (10mL以上～100mL未満)
Q2. スプレー作業の有無	いいえ	いいえ	いいえ
Q3. 塗布面積1m2超	いいえ	いいえ	いいえ
Q4. 換気レベル	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)	換気レベルB (全体換気)
新風風速の確認			
Q5. 作業時間	30分超～1時間以下	30分以下	30分以下
Q6. 作業頻度	5日/週	5日/週	週1回以上 5 日/週
Q7. ばく露の変動の大きさ	ばく露濃度の変動が大きい作業	ばく露濃度の変動が大きい作業	ばく露濃度の変動が大きい作業
[オプション] 呼吸用保護具			
フィットテストの方法			
経皮吸収			
Q8. 接触面積	両手及び手首	片手の手のひら付着	片手の手のひら付着
Q9. 化学防護手袋	手袋を着用していない	耐透過性・耐浸透性の手袋を着用している	耐透過性・耐浸透性の手袋を着用している
Q10. 保護具の教育	教育や訓練を行っていない	十分な教育や訓練を行っている	十分な教育や訓練を行っている
危険性			
Q11. 取扱温度	常温	常温	常温
Q12. 着火源の対策	はい	はい	はい
Q13. 爆発性蒸気形成防止	いいえ	いいえ	いいえ
Q14. 有機物、金属の取扱い	はい	はい	はい
Q15. 空気、水との接触	はい	はい	はい

備考 (任意)

リスクの再判定結果

	ばく露限界値 (管理目標濃度)			推定ばく露濃度			リスクレベル				
	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	吸入 (8時間)	吸入 (短時間)	経皮吸収	合計 (吸入+経皮)	危険性 (爆発・火災等)
1	111-42-2 2, 2'-イミノシエタノール 皮膚等有害化学物質、濃度基準値設定物質、リスクレベルS										
現状	0.05～0.5 ppm	1.5 ppm	16.11 mg/day	0.01～0.1 ppm	0.1 ppm	1620 mg/day	II-A	I	IV	IV	I
対策後	0.05～0.5 ppm	1.5 ppm	16.11 mg/day	0.001～0.01 ppm	0.01 ppm	12.9 mg/day	I	I	II	II	I

有害性 濃度基準値設定物質の長時間 (8時間) ばく露の評価結果は十分に良好です。
濃度基準値設定物質の短時間の評価結果は十分に良好です。
皮膚障害等防止用保護具の選定マニュアルに従い、適切な皮膚障害等防止用保護具を着用しましょう。
危険性 (爆発・火災等) 引火するおそれがあるため、着火源の除去、爆発性蒸気形成防止対策の管理を引き続き実施しましょう。

「リスクの再判定」の結果、リスクレベルが許容できるレベルまで下がらなかったことから、「リスク低減対策の検討」に作業条件の改善を追加で入力し、「リスクの再判定」を行いました。

リスク再判定の結果 (最終)

	現状	対策後
吸入	8時間 短時間	-A 小さなリスク 些細なリスク
経皮吸収	至急リスクを下げる対策を実施しましょう	良好です。機器や器具、作業手順などの管理に努めましょう。
合計	大きなリスク	小さなリスク
危険性	些細なリスク	些細なリスク

改めてリスク低減対策を検討し、リスク再判定を行った結果、「経皮吸収」と「合計」のリスクレベルを下げることができました。

また、「吸入 (8時間)」も下げることができました。

「経皮吸収」と「合計」は、将来的にリスクレベルをまで下げることが目指しますが、ひとまずは検討したリスク低減対策を実施する計画を策定し、計画的に措置を進めましょう。

また「リスクの再判定結果」の下方のコメントも確認し、確実に対策を進めていきましょう。

以上で、初歩的な「リスクアセスメント」・「リスク低減対策の検討」・「リスク再判定」の一連の流れは完了です。

～ ご清聴ありがとうございました ～